気象学者のための英語* (3)

木　原　研　三**

今回は4月号に掲載した課題への応募答案を材料として臨床的に話を進めたい.

台風の予報でとくに重要なのはその進路である.

The path is specially important in typhoon forecast. (横浜T氏) で一応良さそうであるが, この英文は Politeness is important in conducting social life. (礼節は社会生活を営むのに大切である) と比較してみると明らかなように, typhoon forecast をするのに path (の知識) が重要である, つまり, それが無ければ typhoon forecast はできないという意味になる. 原和文の意味するのはおそらくそうではあるまい. 台風に関する予報では特に進路についての予報に重点を置かなくてはならぬ, というのがその意味であろう. Among various aspects of typhoon forecasting, the prediction of its movement is of special importance. (予報部N氏) のようにすれば, その意味が適確に伝えられる. ほとんど申し分の無いみごとな訳だが, 欲を言えば various aspects の前に the を補いたい. ごくあっさりと In forecasting typhoon, it is most important to predict its path. (航空気象台A氏) とするのも良いが, typhoon は Countable noun だから冠詞をつけるか複数にするか, どちらかにしなくてはならぬ. ただし in forecasting a typhoon としても疑問が残る. forecast an earthquake は良いが, forecast a typhoon に疑問を感じるのは, 前者は「地震 (が起こるの) を予報する」であるが, 後者は「台風 (が起こるの) を予報する」のではないからであろう. 台風は現に起こっているのである. 今後それがどんな進路を取るか, どのくらい大きくなるか, 予報はこういうことについて行なわれるのである. forecast *about* a typhoon とすればその意味が出ると思う. 試訳を一つ. In forecasting about a typhoon, we should put special emphasis on its probable path. この文の probable は「今後それが通りそうな」というような意味である. man's *probable* future という場合と同じである.

「予報」といっても台風の場合にはむしろ「警報」に近いわけであるから, その点を重く見て訳せば, 原文から少し離れるが次のような文も考えられる. In issuing typhoon warnings the probable course of the typhoon must be indicated as precisely as possible.

なお, 横浜T氏は点やピリオッドに, 点 (dot) を使わず, マル (。) を使っておられるが, これは異様であるから改められたい. また forecast を forcast とする人が多かった. 英語の接頭辞 (prefix) に for- と fore- があるが, 「前」を表わすのは原則として fore- のほうである. for- で「前」を表わすのは日常語では forward だけと思ってよい. for- は普通 forget, forgive などに使われ「前」とは関係がない.

したがって台風の速度や進路についてはいままでにも多くの研究が行なわれた.

高松M氏の訳文を示すと Many works concerning the track of a typhoon as well as the speed of its movement have been presented.

文法上の誤りは無いけれどもいくつかの問題点はある. まず works は単行本を意味するのが普通であるから, ここでは避けたほうが無難である. Hornby の辞書では a work (=book) on modern art という例が示されている. もっとも work を Uncountable noun に用いて *Much work* has been done concerning…とするならば結構. この has been done の位置にも注意されたい. M 氏の訳文のように主語が長々と続いて最後に have been presented が来ているのはまずい. それに present は「提出する」の意であるから a doctoral thesis presented to Tokyo University (東京大学に提出した学位論文) というようなコンテクストに使われるべき語のようである.

青森M氏の訳 Consequently, many investigations have been made on the velocity or the course of typhoon. はすなおな訳であるが or を and にし,

* English for the Meteorologist (3)

** K. Kihara, お茶の水女子大学(英語学講座担当)

—1968年6月9日受理—

typhoon を *a* typhoon にしたい．予報部N氏はここでも達者な筆をふるい Hence there have so far appeared a lot of works on the speed and path of typhoon. と訳されているが，やはり typhoon が裸かのままでは困る．Hence はかなり文語的な語で，これを使うとそのあとを「主部述部」のような sentence の形にしないで名詞だけにすることが多い．それと a lot of は口語的スタイルなので文語的な Hence とつなげると何となくチグハグな感じがする．こんなにしてはどうだろうか．Hence the large number of studies concerning the speed and…

「多くの研究が…」の所は普通に記せば上の青森M氏や気象庁予報部K氏の numerous investigations have been carried out on…のようになるが，少し variety を求めたければ，We have had no lack investigations on…としたり（～これは「に事欠かなかった」が原義で，やはり「多かった」の意味になる），原文から離れて，The attention of investigators has been centered on…とか The speed and path of the typhoon have claimed much of the attention of investigators などとすることもできよう．

> まず台風の代表的な進路を調べてみると南洋にある間は西から西北西に進み，沖縄の南東方で次第に進路を北西，北，北東というように変え，それからは北東ないし，東北東に進み，いわゆる放物線状の経路をとる．

ちょっと長い文で，一読して頭にスッと入るような英文にするにはなかなかむずかしい．航空気象台A氏の訳を示そう．

First, it is found, as a result of investigation, that typical typhoon path is what you call parabola; a typhoon moves toward west to westnorthwest in the tropical ocean and gradually turns to northwest, north and northeast in succession to the southeast of Okinawa, and then goes to northeast or eastnortheast.

原和文には無いが「これまでになされた多くの研究の結果，次のことがわかっていた」の意が含まれているので as a result of investigation を入れたと思われる．ねらいは良いのだが，先行する文への接続を考えるならば From these investigations we know that…としたほうが良い．「まず」の First は不要．原文で最後の「いわゆる拋物線」を初めに持って来たのもおもしろい行き方だが，typical の前に the を，parabola の前に a を入れたい．原文の「調べてみると」はこの訳文のように無視したほうがすっきりする．Now, we begin with the study of its normal course.（青森M氏）はかえって大げさになる．The tract of a typhoon is explained as follows.（高松M氏）は explain が不適当．explain は本来，なぜそうなるのか，というような行動の深い理由を明らかにするような場合に用いる語である．That *explains* his absence. は「それで彼が欠席した理由がわかる」ということである．台風の track どんなコースを取るかを言うだけならば describe などのほうが良い．

A氏の上掲訳例に戻る．a parabola までで概括的な statement をして，以下はその具体的な detail を述べることになるがその際の punctuation は；でなく：を使うのが好ましい．（高松M氏のように…as follows とした後も；でなく：である）．「西から西北西」は「西ないし西北西」の意であろう．toを使うよりも多くの人がしていたように west *or* west-northwest がよかろう．なお「西北西」は west-north-west とするのは英国式，west-northwest は米国式である．ハイフン無しで続けるのはあまり見ない．「南洋」の訳として in tropics（予報部N氏）は in *the* tropics が正しく，in the South Sea Islands（高松M氏，Tateno Emonii）は in the South Seas（青森M氏）とすべきであろう．「彼は南洋へ移住した」ならば He went to live in the South Sea Islands. だが台風にとってはちっぽけな島など問題にならない．

「次第に進路を北西，北…」は訳しにくい個所である．上の訳文では turns の主語が typhoon なので，進行方向が次々に変わるということがはっきり表われていない．in succession も不要．by turns を使った人もあるが，この句は They slept *by turns*.（代わり番に眠った）のように使うべきもので不適当．gradually があれば in succession も by turns もいらないのである．そうするとto northwest, north and northwest と並べただけでは何のことか理解しにくい．このあたりは It gradually changes its path direction from northwest to north and then to northeast…とでもすれば比較的原文に忠実な訳ということになろう．しかしこれは英文としてくどい感じである．参考のために Petterssen, *Introduction to Meteorology* (1958) ではどんな表現をしているかと調べてみたら On the whole, the beginning hurricanes move westward, develop, and recurve northward.

(同書 p. 248) となっていた．たしかに英文としてはこの程度で良さそうで，上の原和文はそのまま英訳するにはきめが細かすぎるようだ．

「沖縄の南東方で」は上の訳文で良さそうに見えるが，厳密に言うと，上の「南東方で」はただ方向を示すだけでなく，「南東方のあまり遠くない所で」という意味である．つまり somewhere not far away, to the southeast of Okinawa ということだが，これではくどすぎる．the southeastern sea area of the Okinawa Island (予報部N氏) もうまくない．sea area という言い方があるのか疑問だし，sontheastern のつけ方もまずい．the sea to the southeast of Okinawa とすべきであろう．なお island をつけるなら the Okinawa Islands と複数にしたい．結局，北上する台風のがわから見れば「沖縄の手前で」ということだから，somewhere short of Okinawa とするのが原文から離れるが一番簡潔で良かろう．以上をやや自由な態度でまとめてみる．

We know, from their investigations, that the typical typhoon takes the following course: in its initial stages in the South Seas the typhoon moves west or west-northwest, and somewhere short of Okinawa it gradually recurves northward, until finally it settles in a northeast or east-northeast path. Thus the typical course is a parabola.

最後の文の typical と course は上に一度使われているので，繰り返しを避けたければ，Thus the whole track is a parabola. としてもよい．

44年度白鳳丸研究航海シンポジウムについてのお知らせ

東京大学海洋研究所

44年度の白鳳丸の研究航海の大綱は，42年度に開催された各分科会シンポジウムの結果を参考にして，協議会・共同利用施設運営委員会・分科会の合同会議で決定されております．これらの航海を学問的により成果のあるものとするために，下記の通り，シンポジウムを開催することになりました．積極的な参加をお願いいたします．

記

日　時　昭和43年8月26日(月)～29日(木)：午前9時～午後5時

会　場　東京大学海洋研究所　大講義室（東京都中野区南台1-15-1）

日　程

8月26日　1.　日本海・日本海溝航海（日本海・日本海溝の地質・地球物理学的研究，日本海の生物相および生物生産に関する研究）
コンビーナー：奈須紀幸

8月27日　2.　北・熱帯太平洋航海（北・熱帯太平洋海域の低次生産層物質循環機構の研究）
コンビーナー：根本敬久，田中昌一

8月28日　3.　北太平洋航海（北太平洋北西部における深水層・中水層の研究）
コンビーナー：寺本俊彦，堀部純男

4.　九州南方航海（GARP 計画）（大気—海洋間相互作用の研究）
コンビーナー：寺本俊彦

8月29日　5.　伊豆・小笠原航海（北太平洋西部深層水および浅海堆積物の研究）
コンビーナー：寺本俊彦，堀部純男

6.　ソロモン・サンゴ海航海（太平洋赤道潜流の源の研究）
コンビーナー：寺本俊彦

御希望の方は，8月中旬にシンポジウム予稿集をお送りすることになっておりますので，海洋研究所事務部共同利用係まで御連絡下さい．